

平成25年度 附属学校園存続のための特色化にかかわる事業実施報告書

事業の名称	通常保育終了後における保護者や地域・小学校・大学の人材を活用した新しい子育て支援のカリキュラムと効果的な運営方法の開発
事業実施代表者名	福井 博志 附属函館幼稚園副園長
実施附属学校名	附属函館幼稚園
事業内容 (実施内容について、 1,000字程度で記述)	<p>平成20年に改訂された幼稚園教育要領では、基本方針として子育て支援と預かり保育の活動内容や意義を明確化することが示された。それまで、全国の国立大学附属幼稚園では預かり保育などの取組は行われておらず、附属函館幼稚園では、平成22年度に、学術研究推進経費などをもとに全国の国立附属学校では初となる預かり保育「附幼きりのこきっず」の取組を開始した。</p> <p>国は目下、次世代育成支援改革の取組として子ども・子育てビジョンの策定や基本システムの制度設計を推し進めており、「こども園」に象徴される幼保一体化や、これまでの教育課程上の保育に加え、預かり保育を含めた総合的な保育による幼児教育・保育の質の向上が喫緊の研究課題としてクローズアップされている。</p> <p>附属函館幼稚園では、園のスタッフや保護者、地域、小学校・大学の人材などが協力して、「預かり保育」や「子育て支援の事業」を展開することによって、朝から幼稚園で行われる通常の保育活動と午後の「預かり保育」活動の有機的な連携を図り、その教育効果を高めることや、保護者の互助によるより豊かな子育て支援の場と経済性を兼ね備えた新しい「預かり保育」の形態を次の4つの場として提案し、事業を展開した。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①「家庭生活との連続性を考えながら、家庭的で落ち着いた雰囲気の中で過ごすことができる場」 ②「教育課程に関わる保育時間や家庭では経験できない活動、かかわりを経験することができる場」 ③「子育てに関する情報を得たり、保護者同士が気軽に相談でき、保護者の子育てを具体的に支援する場」 ④「幼稚園と家庭、保護者が在園児全員の成長にかかわる連携的意識を醸成する場」 <p>これらを受けて、「わくわくきっずの日（異年齢の友だちとともに好きな遊びをしながら、家庭的な雰囲気過ごす日）」、「イベン</p>

	<p>トの日（お母さん先生や外部講師の方などが来て、事前に企画した楽しい活動をして過ごす日）」、「レッツ講座の日（外部講師が来て、何回かにわたり、子どもが楽しく取り組みながら習い事をする日）」、「子育てトークの日（子どもを園に預かりながら、子育てについて日頃から気になっていることを、先輩お母さんと気軽に話し合える日）」、の4つの具体的な形態を作って「預かり保育」を行った。</p>
<p>成果と課題 （活動の成果と課題について、500字程度で記述）</p>	<p>各月の保育計画の中にバランスよく4つの「預かり保育」の形態を配置し、5月下旬から週2回（火曜日と木曜日）実施した。これまで総回数50回、延べ823人の園児が参加し、1回あたりの平均が17人、最大時には40人の参加があった。その内容であるが、中心となるのは異年齢交流の日である。それ以外では、お母さん先生による英語で遊ぶ講座とダンスを行う講座が合計4回実施された。大学との連携面では、サッカー部員が幼児にボール遊びを楽しませながらサッカーを行う教室を3回、吹奏楽団員による演奏会が1回行われ、いずれも参加人数が多かった。また、2月には函館校の外国人教員による英語を交えて遊ぶ企画が1回予定されている。音楽鑑賞会では歌の先生やフルート奏者、サクソフongグループ、ハーモニカ合奏団が来園され、専門的な曲から童謡にいたるまで、子どもの興味・関心をひく演奏を聞かせてくれた。また、日本の伝統文化を体験させるために、茶道や日舞の先生が来園され、貴重な経験をさせていただいた。</p> <p>課題としては、2点あげられる。一つは「預かり保育」と午前の通常保育との関連である。預かり保育は希望する園児が利用する形となるため、その点で困難さが伴う。もう一つは、保護者の経費負担である。人件費を含めた必要経費について、大学からの補助を必要とせず実践できるようにしたいと考えている。</p>
<p>今後の発展性 （残された課題の解決方策及び取組の方向性について、500字程度で記述）</p>	<p>「預かり保育」を利用している保護者や園児の声などから分析すると、保護者も園児も「預かり保育」に期待しているのは、「レッツ講座の日」や「イベントの日」などの習い事的な要素である。特に年長組の保護者や園児にその傾向が強い。しかし、少子化が進み、さらに家庭に帰ってから近所で安心して遊ぶことができる環境が少なくなっている昨今、子どもの遊びを考えると様々な遊びを通じた異年齢の交流にこそ「預かり保育」の良さがあると思われる。「預かり保育」を単なる延長保育と考えずに、教育的効果を考えて「預かり保育プログラム」を作る必要性を感じる。</p>

	<p>その際、通常保育との関連性も意識する必要がある。今年度は「預かり保育」を担当する非常勤講師の負担を考慮し、ゲストティーチャー選定や日程調整、おやつ準備等に専念できるように通常保育と区切る勤務体系をとった。その結果、担当者の独自性が活かされるようになったが、通常保育との連携方法（園児の様子引き継ぎ）等が課題となった。</p> <p>子育て支援という目的からも、教務・預かり保育担当・保護者で構成される「預かり保育」について、より良い効率的な運営方法の策定が必要であると思われる。</p>
<p>事業の公表状況 （事業をHPで公開した場合、又は新聞等に掲載された場合、当該媒体名、掲載日等を記入）</p>	<p>すべての「預かり保育」が終了した段階で、本年の活動計画や主なイベント等について、3月中にホームページへ掲載する予定。</p>

（注）当該事業に係る写真等の参考となる資料がある場合は、この事業報告書に添付すること。